

(様式2)

公立大学法人青森公立大学

平成25年度 業務実績評価書

平成26年8月

青森市地方独立行政法人評価委員会

目 次

I	評価の基本的な考え方	1 頁
II	全体評価	
1	総評	3 頁
2	業務の実施状況	4 頁
3	組織、業務運営等に係る改善事項等	5 頁
III	項目別評価	
1	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（教育）	5 頁
2	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（研究）	6 頁
3	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（地域貢献）	6 頁
4	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための計画	7 頁
5	財務内容の改善に関する目標を達成するための計画	7 頁
6	自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための計画	8 頁
7	その他業務運営に関する重要目標を達成するための計画	8 頁

I 評価の基本的な考え方等

青森市地方独立行政法人評価委員会は、地方独立行政法人法第28条の規定に基づき、公立大学法人青森公立大学（以下「法人」という。）の平成25年度における業務実績について評価を行った。

評価の実施に当たっては、法人の年度計画に定めた事項ごとにその実績等を明らかにした業務実績報告書及び法人への聴取等に基づき調査・分析を行うとともに、その結果を踏まえて「項目別評価」及び「全体評価」を行った。

1 項目別評価

調査・分析の結果を踏まえ、中期計画の次の事項（以下「大項目」という。）ごとに、中期計画の達成に向けた業務の進捗状況及び特記事項の内容を総合的に勘案して、5段階により評価する。なお、教育研究については、その特性に配慮し、専門的な観点からの評価は行わず、事業の外形的な進捗状況を評価する。

【大項目】

- ①教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（教育）
- ②教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（研究）
- ③教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（地域貢献）
- ④業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための計画
- ⑤財務内容の改善に関する目標を達成するための計画
- ⑥自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための計画
- ⑦その他業務運営に関する重要目標を達成するための計画

【5段階評価】

- 5：中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
- 4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
- 3：中期計画の達成に向けておおむね順調な進捗状況にある。
- 2：中期計画の達成のためには進捗がやや遅れている。
- 1：中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。

2 全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、平成25年度における業務実績の全体について、記述式により市民がわかりやすい総合的な評価を行う。また、必要がある場合は、法人に対する業務運営の改善その他の勧告事項を記載する。

3 青森市地方独立行政法人評価委員会委員

区 分	氏 名	役 職 等
委 員 長	林 光男	青森商工会議所名誉会頭
委 員	山口 智之	日本銀行青森支店長
委 員	井畑 明男	株式会社青森銀行顧問 (前社団法人青森県経営者協会会長)
委 員	内村 隆志	日本労働組合総連合会青森県連合会会長
委 員	馬場 忠彦	公立大学法人青森県立保健大学事務局長

Ⅱ 全体評価

1 総評

公立大学法人青森公立大学は、経営経済の分野の諸問題について地域性を軸にした理論的・実証的研究を推進し、その研究成果に基づいて、広く社会に有為な人材を輩出し、更には大学が存在する地域を中心として国内外に大学が持つ知的財産を還元し、貢献するという使命を帯びている。

平成21年度に公立大学法人へ移行し、第1期中期目標期間（平成21年度から平成26年度まで）の5年目を迎えた平成25年度は、入学希望者の増加を目的とした県内外の高校訪問を拡充するとともに、キャリア支援の充実を目的とした首都圏企業のインターンシップ制度の拡充や就職先の新規開拓を積極的に進めた結果、平成25年度の就職率は98.2%と全国平均就職率と比べて高水準となるなど、高い成果を上げたと認められる。引き続き、インターンシップ先企業の拡充など、就職率向上に向けた様々な取組の推進が必要である。

年度計画については、中期目標・中期計画を策定した当時とは大学を取り巻く環境や状況が著しく変化したことなどにより、実施しないと判断した取組や一部努力を要する事項が認められるものの、予定していた各取組については、ほぼ計画どおり着実に実施しており、総じて、順調な進捗状況にあると評価できる。

年度計画を十分には実施していないと判断される取組については、第1期中期計画の最終年度である平成26年度において、より一層の取組の強化を求める。

なお、次期中期計画の策定に当たっては、これまでの実績の把握・分析を踏まえ、その結果を実効性のある取組として、適切に反映させるよう検討されたい。

今後も、理事長、学長を中心に、教職員が一致団結して青森公立大学に求められている使命、すなわち、広く社会に有為な人材を輩出し、地域に貢献するという使命を明確に果たし、これまで以上に地域に貢献する高等教育機関としての機能を発揮するとともに、第1期中期計画の着実な達成を強く期待する。

2 業務の実施状況

業務の実施状況は、実施しないと判断した取組や一部努力を要する事項が認められるものの、全体としては年度計画に定めた取組については、ほぼ計画どおり着実に実施しており、特に、大きな問題は見られない。業務の実施状況は、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。

大学の教育研究の質の向上については、退学勧告を受けて自主退学し、再入学希望の科目等履修生となった者に対して、きめ細かな対応を行うとともに、新たに首都圏企業のインターンシップを実施するなど、学びや就職に関し意欲のある学生への積極的な支援、取組を高く評価する。

また、大学間競争の激化に対応した入試制度の見直しや県内外の高校訪問（わらじ作戦）の拡充を図るなど、学生の獲得に向けた取組についても同様に評価する。

地域貢献については、青森商工会議所と青森公立大学を含む県内五大学との連携協定等、大学COC（地域再生の核となる大学づくり）に関する取組や、公開講座、講演会などを通じた研究活動の地域への還元、更には、国際芸術センター青森の各種教育プログラムについても、地域への貢献度が高いと認められる。

業務運営及び効率化については、事務等の効率化・合理化を目指すため、外部委託が可能な事務の選定を行い、可能な限り業務の効率化に向けた検討を進めるとともに、特任教授制度の創設や学芸員の給与規程などの人事の適正化を図っている。

財務内容の改善については、産学官連携による人材育成事業が国の補助事業に採択されるなど、様々な外部資金獲得の取組が推進されたことに加え、経費削減の取組により、剰余金が生み出されたことは大学としての経営努力によるものと高く評価する。

自己点検・評価及び当該状況に係る情報提供については、大学評価の第三者機関による外部認証評価結果における努力課題について、可能なものから順次改善が行われているなど、評価結果を積極的に活用し、改善に向けた仕組みが良く機能している。

3 組織、業務運営等に係る改善事項等

特に改善勧告を要する事項はない。

Ⅲ 項目別評価

1	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（教育）	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
<p>学生の育成については、就職率の向上のため、産学連携協議会を開催し、直接企業から情報収集を行い、その情報を学生のみならず、保護者にも提供するなど、大学と保護者が連携して学生をサポートするとともに、フォローアップ教育を充実させるため、平成25年度同窓会総会において、参加卒業生を対象とした特別授業を実施するなど、卒業した学生も含め、特色のある指導を行ったことは、大学間の競争力向上や入学希望者の増加につながるものとして評価する。</p> <p>教育内容等については、教育効果を高めるため、新カリキュラムの開講を順次行うとともに、導入教育やリメディアル教育の徹底、退学勧告を受けて自主退学した学生で、再入学を目的に科目等履修生となった学生への個別指導や面談を実施するなど、学生と真摯に向き合う姿勢は、「教育に責任を持つ」大学として高く評価するものである。今後も、大学の特色の一つである退学勧告制度の適正な運用を期待する。</p> <p>教育の実施体制については、国際情勢を見据えた新たな留学先の選定や国際芸術センター青森の学生の施設利用を拡大するためのACAC情報コーナーの学内設置及び学生が利用しやすい外国語支援システムの導入に向けた取組など、教育・学修環境の改善が図られている。その効果については、随時、検証し改善に向けた取組を継続していただきたい。</p> <p>学生の受入れについては、大学間競争の激化に対応して入試制度の随時見直しや新たな試験会場の開設など、学生獲得のための取組を高く評価する。</p> <p>学生への支援については、学生時代に社会活動に参加する機会を確保することが、社会人となってからも有益であることから、ボランティア活動に誘導する取組の強化を図る必要がある。</p> <p>他の事項についても、年度計画の目標を達しているものと認められることから、全体として、順調な進捗状況にあると評価できる。</p>			

2	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（研究）	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
<p>研究内容については、申請主義による研究活動に対する公正な評価システムとして戦略的研究助成事業を創設したことは、大学の活性化と教員の研究意欲の向上につながるものであり、研究の質の向上のみならず、教育の質の向上にもつながるものとして評価する。</p> <p>研究実施体制等の整備については、学生の研究活動参加体制の改善の取組として、地域研究センターの受託研究事業において、学生が調査員として研究活動に参加することにより、地域の抱えている諸問題についての知識を深め、実践的に地域問題を解決できる人材を育成していることを高く評価する。</p> <p>その他の事項についても、年度計画の目標を達しているものと認められることから、全体として、順調な進捗状況にあると評価できる。</p>			

3	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（地域貢献）	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
<p>地域連携の強化については、地域連携センターによる総合的な地域連携体制を確立し、地域コミュニティ再生に向けた中核的な知の拠点としての機能を発揮するため、大学の「知」を活かし、地域課題に迅速かつ適切に対応することを目的に、青森商工会議所と青森公立大学を含む県内五大学が連携協定を締結し、積極的に中心市街地活性化等に取り組んでいることを高く評価する。</p> <p>研究成果の地域への還元については、国際芸術センター青森の事業として、展覧会開催や各種ワークショップ等が実施されており、また、新たな試みとして芸術普及事業の一環で県内アーティストによるコンサートを開催するなど、国際芸術センター青森の事業成果を地域に還元する取組について高く評価する。今後、更なる国際芸術センター青森の有効活用を図るべきと考える。</p>			

国際交流については、国際情勢を見据えながら、新たに策定した「青森公立大学国際交流に関する基本方針」に基づき、平成26年度には、ワイカト大学（ニュージーランド）への短期語学研修の試行を決定するなど、グローバル化への取組についても積極的に進めている。

その他の事項についても、年度計画の目標を達しているものと認められることから、全体として、順調な進捗状況にあると評価できる。

4	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための計画	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
<p>人事の適正化については、公平な人事評価の実施に向け、職員の雇用、人事、評価、継続・非継続等に関する新しい人事ルールによる運用を開始するとともに、定年制教員で平成25年度に評価対象となった教員の業績評価についても、自己評価委員会において適正に行われている。今後も、人事の適正化を推進するため随時見直しを行うなど、積極的な対応が求められる。</p> <p>その他の事項についても、年度計画の目標を達しているものと認められることから、全体として、順調な進捗状況にあると評価できる。</p>			

5	財務内容の改善に関する目標を達成するための計画	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
<p>外部研究資金その他の自己収入の増加については、受験生の確保のため、積極的に県内外の高校訪問（わらじ作戦）を実施するとともに、県内外の高校において出前講義を実施し、大学の魅力発信を行った。今後も、継続した入学志願者の増加につながる取組が求められるが、県内入学者の確保にも留意する必要がある。</p> <p>また、教職員が外部研究資金の獲得に努めた結果、国際芸術センター青森のアーティスト・イン・レジデンス事業が文化庁の文化芸術の海外発信拠点形成事業に、産学官連携による人材育成事業が文部科学省の補助事業に、採択されたことは評価する。</p> <p>経費の抑制については、将来ますます厳しくなる財務状況を見据え、複数の委託業務の一本化による経費節減など、効率的な予算の執行について、継続して取り組んでいることについて高く評価する。</p> <p>その他の事項についても、年度計画の目標を達しているものと認められることから、全体として、順調な進捗状況にあると評価できる。</p>			

6	自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための計画	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
<p>評価の充実については、大学評価の第三者機関である財団法人大学基準協会による外部認証評価結果における努力課題について、大学の各種会議等において速やかに検討が進められ、可能なものから順次改善が行われており、評価結果の適切な活用が図られている。今後とも、評価結果及び自己点検評価を有効に活用し、これまで以上に魅力ある大学となるよう改善計画の策定・実施を確実に進めることを期待する。</p> <p>また、評価結果の活用については、FD（教員の教育・研究の質の維持・向上を図るための取組）研修のほか、新たに他大学主催のFD合宿セミナーに教員を参加させるなど、教職員の資質の向上に積極的に取り組んでいる。</p> <p>その他の事項についても、年度計画の目標を達しているものと認められることから、全体として、順調な進捗状況にあると評価できる。</p>			

7	その他業務運営に関する重要目標を達成するための計画	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
<p>施設設備の整備・活用等については、教室等の一般貸出について、基準等の整備に向けた準備が進められているが、地域貢献あるいは自主財源の確保のためにも、速やかな対応が求められる。</p> <p>また、安全管理については、平成26年度から実施する学内の禁煙対策について衛生委員会で検討するなど、安全衛生の改善に努めているが、社会的要請を踏まえ、一層のスピード感をもって対応されたい。</p> <p>その他の事項については、年度計画の目標を達しているものと認められることから、全体として、順調な進捗状況にあると評価できる。</p>			